

今月の技術対策 (水稻編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

畑作・園芸編も
HPで公開中!

移植前後の一時的な低温や強風により葉色の淡いところもあり、生育が緩慢となっています。1ヶ月予報(5/27~6/26)によると、平均気温は平年並みか高い傾向、日照時間はほぼ平年並みの見込みとなっています。

1 活着期～分けつ初期の水管理 ～基本は浅水管理～

(1) 分けつの良否は水温に左右されます(適温は25℃前後)。活着後は基本的に浅水・止め水管理(図1)とし、水温を高め、分けつの発生を促進しましょう。

※極端な低温や強風の時は草丈の2/3程度の水深にします。

(2) 入水は、水田と用水の水温差が小さい夜間～早朝に行いましょう。昼間の入水は水温を低下させます。

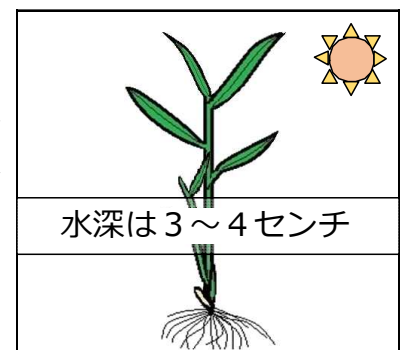


図1 活着後の水管理

2 除草剤散布のポイント ～適正な処理で効果を高めましょう～

- 農薬使用時は登録内容をラベルで必ず確認しましょう
- 除草剤は、散布時期と雑草の発生状況を確認し、効果的に使用をしましょう
- 風が強い日はドリフトや吹き寄せによる薬害に注意してください

- (1) **一発処理剤**の散布は、水深3～5cm(ジャンボ剤や一部のフロアブル剤の使用方法を除く)の止め水にし、7日間は掛け流しや落水を行わないでください。
- (2) **ジャンボ剤**は有効成分が拡散するように、水深5～6cmにして投入します。
- (3) **フロアブル剤**の水口処理は、均平度が高く水持ちの良い水田で、6時間以内に5～6cmの入水が可能な水田に限ります。また、入水後オーバーフローしないように、畦畔が極端に低い水田での使用は避けてください。
- (4) **昨年度に田面の乾燥が激しかった水田**は減水深が通常年より大きくなり、薬害や効果の低下する恐れがあるので注意して下さい。散布後7日間以内に田面が露出する場合は、静かに入水して露出を解消して下さい。
- (5) 残草を発見した場合は、種類や発生量を確認して、必要に応じて後期剤等の使用を検討しましょう。

3 ワキの発生程度とその対策 ～水田がブクブクしたら～

排水不良田や稲わらをすき込んだ水田は、土壌中の酸素不足でワキが発生しやすくなり、硫化物や有機酸等有害物質が発生し、根の活動・養分吸収を阻害することで分げつを抑制します。表1を参考にワキの程度に応じた対策をしましょう。

表1 ワキの程度とその対策

ワキの程度	水田の状態	根の状態	対策
軽	水田水の表面にわずかな気泡が生じる。足を踏み込むと気泡が発生する。	白根が30%以上	暗きよ水こうの解放 水の入れ替え
中～強	多くの気泡が生じる。足を踏み込むと一斉に音を立てて気泡が発生する。	白根が30%以下	好天日に落水・溝切り 連続高温日に中干し

※極端な低温が予想される場合は中干しを行わず、水の入替え程度でとどめましょう。

4 幼穂形成期を確認しましょう！ ～深水管理で、幼穂を低温から守りましょう～

幼穂形成期から約20日間は、花粉が作られる重要な時期です。深水管理を行い稔実歩合を高めましょう。

(1) 幼穂形成期の確認 ～幼穂が2mmに達した日が「幼穂形成期」～

表2 幼穂の長さから判断する幼穂形成期

幼穂の長さ (mm)	1	2	5	10	15
幼穂形成期の目安	2日後	当日	3～4日前	6日前	8～9日前

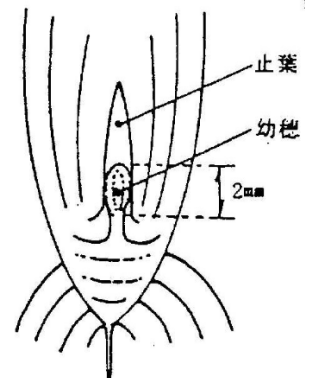


図2 幼穂の断面

表3 幼穂形成期の平年値 (普及センター調べ)

成苗	ななつぼし	苫前町	6/27	羽幌町	6/28
中苗	風の子もち	初山別村	7/1	遠別町	7/4

(2) 前歴期間 ～幼穂形成期から10日後の期間で花粉の数が決まる～

水深は1日1cm程度高くなるようにし、最終的に10cmになるよう徐々に深水にします。茎数が不足している場合は、最初の5日間程度は水深5cm程度で分げつを促し、その後徐々に入水し水深を10cmにします。

(3) 冷害危険期間 ～前歴期間後7日間で花粉が発育する時期～

水深は18～20cmを目標とし、1日1～2cm程度入水し、可能な限り深くしましょう。

(4) 入水について ～余裕を持って、徐々に入れましょう～

慌てて大量に入水すると①水温が下がる②地域用水量が減るといった問題があります。

刈払機使用の際には、プロテクターや保護めがね等を装着しましょう！